

倉吉市における早期発達支援体制整備の取り組み —効果的な巡回相談のあり方の検討—

井口 妙子¹・山口 穂菜美²・井上 雅彦³

¹ 倉吉市健康福祉部子ども家庭課

² 島根大学学術研究院教育学系

³ 鳥取大学大学院医学系研究科

要約

自閉スペクトラム症を中心とした発達障害児のフォロー方法の1つとして、地域においては巡回相談がその機能を大きく担う。就園率の高い倉吉市において従前より行ってきた巡回相談について、より効果的なあり方について検討を行った。2020年度に管理職による相談児童の絞りこみのためのシート、及び保育担当者による実態把握に関する記入シートを新たに導入・見直しを行った。さらにそれらを使用する際の観点について2021年度に対象児選定のためのフロチャート、及び児童の実態把握のための研修動画の作成も行い、それぞれ研修会を実施した。2020年度、2021年度の巡回相談後にアンケートを実施し、フロチャート、研修動画それぞれにおいて効果が示唆された。今後、さらに効果的な巡回相談とするためには相談対象児選定のフロチャートと実際の支援の具体例の関連づけ、研修内容の充実と同時に研修データベースの構築などによる保育担当者の資質向上の必要性が示唆された。

キー・ワード：巡回相談，地域における早期発達支援体制整備，保育担当者の資質向上

I. はじめに

自閉スペクトラム症（以下、ASD）は、米国における最近の推計で8歳児の36人に1人と発表されている（Maenner, et al., 2023）。米国小児科学会では早期発見と早期介入の必要性を強調している（American Academy of Pediatrics, 2021）。我が国においてはASDを含む発達障害について2005年に発達障害者支援法が施行、2016年に改正され、早期発見と支援、ライフサイクルに沿った切れ目のない支援の必要性が示され、支援体制整備が市町村の責務として位置づけられている。

早期の発達支援体制整備の取り組みの1つとして、巡回相談支援が挙げられる。これは発達障害の理解と対応に詳しい専門家が、一般的な子育て支援機関（保育所等）や教育機関（小学校等）を訪問し、対象となる子どもの生活の場で子どもの対応や環境調整について実践的検討を行う支援方法である（特定非営利活動法人アスペ・エルデの会, 2018a, 2018b）。2011年には厚生労働省によりその体制強化を目的として「巡回相談専門員派遣事業」も開始され、2018年には活用マニュアルも定められている（特定非営利活動法人アスペ・エルデの会, 2018c）。また、巡回相談については多くの研究が報告されており、巡回相

談の実施方法に関するもの（芦澤他, 2008; 原口他, 2013）、巡回相談の実施状況に関するもの（園山・由岐中, 2000）、巡回相談を行う者の専門性・スキルを問うもの（柳沢, 1997; 脇, 2021）、巡回相談実施にあたっての基盤整備に関するもの（植松, 2015）、巡回相談そのものの効果検証（原口, 2021）など多岐に渡る。

倉吉市でも、この巡回相談を2005年より実施している。倉吉市は人口4万4千人、年間出生数は300名程度の自治体だが、1歳児で80%、3歳以上児になるとほぼ100%という保育施設への就園率の高さを活用して、乳幼児健診後の経過観察フォロー児も含めて、保育施設において発達に課題があると思われる児童に対して巡回相談を行っている。

しかしながら、2022年に文部科学省より報告された通常級に在籍する発達障害と考えられる児童は8.8%との割合が示すように、保育現場でも同様に多くの児童が「発達の気になる児童」となっている。そのため、巡回相談を活用する際に「気になる児童は全て相談したい」という保育担当者の思いから、当市においても相談児童が1園1回の巡回相談で20名近くに上ることもあった。上記人数に至る要因として、管理職及び保育担当者は児童の「何を」相談したいのか

曖昧なままであったり、さらには相談したい点はあってもどの児童を優先して相談児童とするのか十分に検討されないまま挙げられたりする現状が散見された。加えて、相談児童の実態把握については、保育担当者ごとに幼児の発達や発達障害に関する知識や理解度により個人間の差が大きい。そのため、1回あたりの巡回相談に設定されているおよそ3時間で、行動観察を踏まえて指導・助言を行うが、指導・助言者が保育担当者にとって有益な情報提供を行うことは非常に難しい現状があった。

そこで倉吉市の保育施設巡回相談において、「相談確認シート」、「実態把握シート」、「フロチャート」を開発し、発達評価に関する研修会を実施した。本研究では、これらのツール、実践について示すとともに、実施前後に行った管理職、保育担当者に対する巡回相談に関するアンケートの変化について検討した。

II. 倉吉市における巡回相談システムとその介入

1. 倉吉市における巡回相談

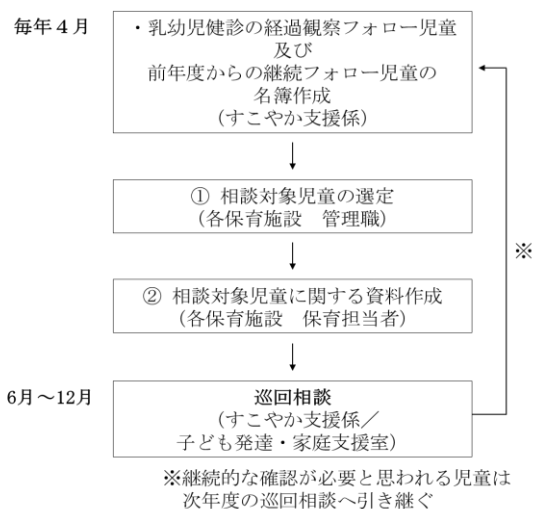
倉吉市では、乳幼児健診などの母子保健を担うすこやか支援係、発達に課題のある児童及び保護者の支援を担う子ども発達・家庭支援室（以下、室）、保育施設等を管理する子育て支援係が同じ子ども家庭課にある機構となっている。さらに、各係が連携・協働することで子育て包括支援センターとしての機能を果たし、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の実現を図っているところである。倉吉市における巡回相談は、市内31保育施設のうち、乳幼児健診において経過観察フォローとなった児童の在籍園及び保育担当者より発達に課題があると疑われる児童の相談があった保育施設を対象にしている。例年、25園程度が巡回相談の対象園となっており、届出保育施設や企業内保育施設を除く、全ての公立・私立保育施設、私立認定こども園は、毎年、巡回相談を利用している。

巡回相談当日に至るまでの流れは、Figure 1に示した。

まず、毎年4月にすこやか支援係において乳幼児健診の経過観察フォロー児童及び前年度からの継続フォロー児童の名簿作成（以下、相談確認シート：資料1）作成を行い、各保育施設へ通知する。保育施設内でそ

Figure 1

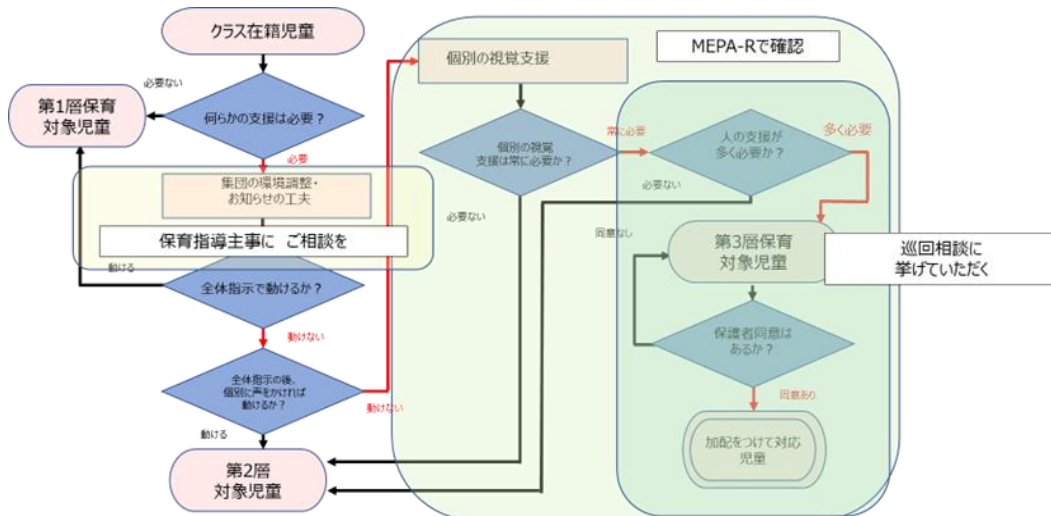
巡回相談に至るまでの流れ



の相談確認シートを元に、前年度の巡回相談における助言・指導内容の実施有無及び効果有無について確認、名簿に名前が記載されていないが保育施設内で発達に課題があると疑われる児童も加えて、当該年度の相談希望有無と優先順位について記載し、すこやか支援係に返却する（①相談児童の選定）。6月～12月の間で訪問日の日程調整を行った後、相談確認シートの優先順位に基づき、各保育施設における保育担当者が実態把握シート（以下、実態把握シート：資料2）の記載、及びムーブメント教育・療法プログラムアセスメント（MEPA-R: Movement Education and Therapy Program Assessment – Revised）を実施、相談当日1週間前にすこやか支援係に提出する（②相談対象児に関する資料作成）。

巡回相談当日は、すこやか支援係に在籍する保健師1名ないしは室に在籍する保健師1名、また室に在籍する児童指導員1名、もしくは発達支援員1名の計2～3名体制で保育施設を訪問し、実態把握シート及びMEPA-Rを元に行動観察を行い、指導・助言を行っている。指導・助言内容は、「家具等の配置変更（物理的構造化）」「全体スケジュールの見直し」「個別スケジュールの導入・見直し」「援助レベルの見直し」「全体活動内容の追加・見直し」「視覚的ヒントの導入・追加」「個別学習・個別時間の導入・見直し」

Figure 2
相談児童選定のためのフローチャート



などで、集団場面・活動における支援と個別の支援に関するものといった階層的な支援の視点から行っている。

2. 巡回相談に関するツール開発と導入

巡回相談に関するツールとして、主に管理職が使用する相談確認シートは2020年度に新たに子ども家庭課において作成・導入、保育担当者が使用する実態把握シートは従前に使用していたものを同年度に改訂し使用した。

相談確認シートとは、相談児童の選定を行うものである。従前の巡回相談においては各保育施設で気になる児童を自由に挙げてもらい、巡回相談当日に、乳幼児健診結果で保育施設にて経過確認を必要とする児童も併せて確認する方法を行っていた。これを変更し、すこやか支援係により乳幼児健診結果及び前年度の巡回相談の結果を踏まえた相談児童候補を記入した本シートを各保育施設で確認・記入するものとした。この相談確認シートに名前が記載されていない、相談を希望する児童については、各保育施設より必要に応じて追加記入を行う。その上で、相談希望の優先順位を上位3位まで選択してもらうものである。

また、実態把握シートは、以前より使用していたシートに米国 UCLA で研究され、その効果が実証されている Joint Attention, Symbolic Play, Engagement & Regulation (以下、JASPER) で用いられる評価方法 Short Play and Communication Evaluation (以下、SPACE) の一部である「共同注意」「遊びのスキルの発達段階」項目を追加・改訂して使用したものである。

相談確認シート、及び実態把握シートのどちらも、保育施設内の管理職及び保育担当者との意思一致を図り、記入負担を軽減するために、自由記載箇所を減らし、選択式による回答が可能となるようにした。

2020年度の巡回相談児童は215名(年長児42名、年中児57名、年少児57名、2歳児46名、1歳児9名、0歳児4名)、2021年度は202名(年長児43名、年中児56名、年少児63名、2歳児27名、1歳児11名、0歳児2名)であった。

3. 研修会実施

2020年度の巡回相談が終了した時点で実施したアンケート(以下、第1回アンケート)において、Figure 1における①相談児童の選定について、管理職より「どの子を相談にあげたらよいか迷う」「優先順位が

つけられない」といった声が多くあったことより、2021年度にRTI (Response To Intervention) モデルに基づく相談児童選定のためのフロチャート (Figure 2) を作成、年度当初に管理職を対象とした研修会を実施した。

また、保育担当者からは Figure 1 における②相談対象児に関する資料作成において、「共同注意の内容が難しい」「遊びのスキルの発達段階がわからない」との意見が多かったことから、同じく 2021 年度にSPACE に基づく「共同注意」及び「遊びのスキル」に関する動画 (以下、研修動画) を作成し、巡回相談が始まる前の 5 月に管理職・保育担当者を対象とした研修会を実施し、その会の中で動画を紹介した (資料 3)。

III. 新たな巡回相談に関する評価

1. 評価の方法

1) 管理職対象アンケート

2020 年に巡回相談を利用した市内 25 か所の保育施設、及び 2021 年は 26 か所の保育施設の管理職及び保育担当者に対して、それぞれアンケートを実施し、全ての保育施設の巡回相談が終了した時点で回答を求めた。2020 年度に関するものを第 1 回アンケートとし、2021 年度に関するものは第 2 回アンケートとした。

管理職対象のアンケートでは、どちらの年度も相談確認シートを用いることによる「記入の手間」「有益度」「相談児童のピックアップのしやすさ」「相談児童の優先順位のつけやすさ」「前年度の巡回相談時の助言内容について園内職員による確認有無」「その内

容の確認のしやすさ」「助言内容についての取り組み有無」「助言内容の取り組みやすさ」「主訴の挙げ方」、また第 2 回アンケートでは「相談児童選定のためのフロチャートの有益度」を追加し、「非常に悪い」から「非常に良い」までの 5 段階のリッカート尺度を用いて尋ねた。対象者は第 1 回アンケート 25 名、第 2 回アンケート 26 名であった。

2) 保育担当者アンケート

保育担当者対象のアンケートでは、実態把握シートの「家族・健診情報」「コミュニケーション (共同注意を含む)」「遊び方・関わり方」「模倣する力」の各項目について「選択のしやすさ」「実態のつかみやすさ」「相談児童の理解の手がかり」の 3 項目について「非常に悪い」から「非常に良い」までの 5 段階のリッカート尺度を用いて尋ねた。また、第 2 回アンケートでは上記に加え、研修動画について「視聴有無」「有益度」について尋ねた。対象者は第 1 回アンケート 88 名、第 2 回アンケート 73 名であった。

3) 分析方法

回答は「非常に悪い」「やや悪い」「どちらとも言えない」「やや良い」「非常に良い」の順に 1 点から 5 点の評価点として集計を行った。第 1 回アンケート、第 2 回アンケートそれぞれの平均点を算出、t 検定を用いて解析を行った後、効果量 d を算出した。統計解析は IBM SPSS Statistics バージョン 28.0 を使用した。

2. 評価結果

1) 管理職対象アンケート

管理職対象のアンケートについては、第 1 回アン

Table 1
管理職対象アンケートにおける事前事後の平均得点の変化

	第 1 回アンケート ($N = 25$)	第 2 回アンケート ($N = 25$)	p	Effect size d
相談内容の確認	4.0±0.89	4.2±0.96	0.32	0.15
相談児童のピックアップ	3.9±0.86	4.2±0.81	0.07 [†]	0.49
相談児童の優先順位付け	3.5±1.06	4.1±0.81	0.02 [*]	0.62
取り組みの確認	4.0±0.89	4.1±0.73	0.35	0.15
主訴の挙げやすさ	4.1±0.73	4.3±0.68	0.21	0.43

注：t 検定を実施，[†]： $p < .10$ ，^{*}： $p < .05$

ケート25名のうち全員（回収率100%）、第2回アンケート26名のうち25名より回答を得られた（回収率96.2%）。回答した管理職とは、園長、副園長、その他の管理職であり、管理職として巡回相談を初めて受ける者は第2回にのみ2名と少なく、一定回数以上の巡回相談の経験を有する管理職が中心であった。

結果についてはTable 1に示した。相談児童選定のためのフロチャートを導入した巡回相談に関する第2回アンケートでは、全ての項目において第1回アンケートと比較してポジティブな回答が増加した。特に「対象児のピックアップ」において10%水準、また「相談児童の優先順位付け」において5%水準で有意差が見られる結果となった。

相談確認シートについては、「昨年の振り返りがしやすくよかった」「昨年度の振り返りだけでなく、健診で気になった子どもさんの確認もできて良かった」「シートを活用することで、子どもの経過確認と相談内容も明確になり活用しやすい」「シート利用で、内容が整理整頓されているので分かりやすく使いやすいと感じている」などの意見があった。

2) 保育担当者対象アンケート

保育担当者対象のアンケートについては、第1回アンケート88名のうち65名（回収率73.9%）より回答を得られたものの、旧式の実態を掴むシートの使用も多く、所定の様式を使用した45名の回答を採択した（有効回答回収率51.1%）。また第2回アンケート対象者73名のうち55名より回答を得られた（回収率75.3%）。回答者の内訳として巡回相談を受ける保育担当者の年代は30代が43.6%～51.1%、40代が

28.9%～32.7%で、全体の約80%を占めていた。また、保育担当者の経験年数としては6年以上10年以下が27.3%～28.9%、11年以上～20年以下43.6%～46.7%で、いわゆる中堅と言われる保育担当者が中心であった。さらに、巡回相談経験回数も初めての者は非常に少なく第2回に3名いるのみで、複数回の巡回相談の経験を有する者で占められていた。

結果についてはTable 2に示した。

研修動画を作成した2021年度に実施した巡回相談に関する第2回アンケートでは、「コミュニケーション」及び「遊び方・関わり方」において、どちらの項目も「書きやすさ」についての変化はなかったものの「実態のつかみやすさ」「相談児童の理解のしやすさ」については第1回アンケートと比較してポジティブな回答が増加した。特に研修動画内で解説した共同注意の項目を含む「コミュニケーション」項目においては「つかみやすさ」と「理解の手がかりになるか」の項目において5%水準で有意差が見られた。実態把握シートについては、「子どもの実態を選択記入する様式で、以前よりも記入しやすくなった」「選択制になったので書類作成が短時間で終わるようになった」「対象児の発達についての把握や遊びや生活の中での行動についてなど、細やかに記載するので、振り返ったときにも把握や活用がしやすかった」などの意見がある一方、「文言や、JASPER的観点の導入など、全体的に難しい気がする」といった意見もあった。

IV. 考察

本研究では、倉吉市の保育施設巡回相談において、

Table 2

保育担当者対象アンケートにおける事前事後の平均得点の変化

	第1回アンケート (N = 45)	第2回アンケート (N = 55)	p	Effect size d
書きやすさ	3.8±0.96	3.8±0.75	0.50	0
コミュニケーション				
つかみやすさ	3.7±0.91	4.0±0.62	0.03*	0.48
理解の手がかり	3.8±0.92	4.0±0.63	0.05*	0.43
遊び方・関わり方				
書きやすさ	3.8±1.01	3.8±0.88	0.43	0
つかみやすさ	3.7±1.02	3.9±0.83	0.15	0.22
理解の手がかり	3.8±0.98	3.9±0.84	0.20	0.12

注：t検定を実施，*：p<.05

「相談確認シート」、「実態把握シート」、「フロチャート」を開発し、発達評価に関する研修会を実施した。ここでは実施前後に行った管理職、保育担当者に対する巡回相談に関するアンケートの変化を中心に今回の新たな巡回相談実践の効果について検討する。

1. 管理職による対象者選定方法について

従前は巡回相談児童の候補を保育施設で自由に挙げてもらっていたが、本取り組みにおいては、行政側より乳幼児健診結果及び前年度の巡回指導の結果を踏まえた相談児童候補を記入した相談確認シートを用意し、各保育施設において確認、必要に応じて相談児童を追加してもらい形を導入した。その上でさらに相談児童選定のためのフロチャートを導入した。その結果、「相談児童のピックアップ」において10%水準、また「相談児童の優先順位付け」において5%水準で有意差が見られた。導入したフロチャートはRTIモデルにおける階層的な支援の考え方を土台としたものであり、巡回相談における「相談児童のピックアップ」と「相談児童の優先順位付け」に直接関与する内容であった。すなわち、フロチャートの導入が上記2項目に効果をもたらしたと考えられた。このことは、保育施設においてこれまで「気になる子」「とりあえず」巡回相談に挙げておくといった相談児童の過剰な相談増加を引き起こしていた状況から、支援を真に必要とする児童がより適切に巡回相談の相談児童に挙げられる状況になったと推察される。

一方で、「相談内容の確認」「取り組みの確認」「主訴の挙げやすさ」に関する内容はフロチャートには含まれておらず、フロチャート導入による有意差は見られない結果となったと考えられる。これらの項目については、相談確認シートが年度頭に管理職が一度確認する使用方法に留まっている現状であることから、今後は相談確認シートそのものの活用方法、及び時期についての検討が必要と考えられた。

また、今回の取り組みで用いた相談確認シートを活用した巡回相談は、乳幼児健診の結果を把握する保健師（行政）と保育施設との綿密な情報共有が土台にあってこそ成しえるものと思われる。植松(2015)は、「巡回相談」等の実施において保健師の役割の重要性を報告しているが、本取り組みにおいても巡回相

談に「至るまで」の過程において、保健師が果たす役割は非常に大きいと考えられた。

2. 保育担当者による相談児童の実態把握について

相談児童の実態把握のために、以前より使用していた実態把握シートにJASPERで用いられる評価方法SPACEの一部である「共同注意」「遊びのスキルの発達段階」項目を追加・改訂したものを、さらに理解を図るための研修動画を作成した。その結果、共同注意を含む「コミュニケーション」項目の「実態のつかみやすさ」「児童の理解のしやすさ」については5%水準で有意差が見られ、研修動画が一定の効果を示したものと考えられる。また、この研修動画が相談対象児理解につながることから、保育担当者研修の1つの手段になりえることも考えられた。

一方で、「遊び方・関わり方」項目ではポジティブな変化はあったものの、有意差は見られておらず、研修動画の効果が及んでいないことが伺われた。その要因の一つとして、研修動画内の「遊び方・関わり方」で紹介されている遊びのバリエーションの少なさがあったと考える。保育現場は多種多様な遊びで溢れている現場であるにも関わらず、研修動画で紹介された「遊び方・関わり方」の実例は、その遊びの発達段階ごとに2~3種類であった。実際に保育現場で行っている遊びと研修動画で紹介された遊びの具体的内容が異なった場合、保育担当者にとって、理論と実践の結びつきが難しい状況になったものと推察される。また、「書きやすさ」については「コミュニケーション」「遊び方・関わり方」どちらの項目においても変化は得られなかった。適切な実態把握は必要だが、「書きやすさ」の点において選択項目での記入をどこまで細かく行うか、今後の検討が必要と推察された。

芹沢他(2008)は巡回相談が果たす5つの機能の1つとして「対象児理解」を挙げている。また、原口他(2013)は巡回相談において行動観察記録による支援会議を行うことの高い有効性を報告している。本取り組みで用いた実態把握シートの内容について、研修動画にて理解を高め、そのシートを用いて相談児童の実態をつかんだ上で支援会議を含む巡回相談を行うことで、より効果的な巡回相談実施の可能性

が示唆された。こうした巡回相談を実施するには、定型発達児の発達段階理解と発達障害理解を保育担当者が高めていけるよう、計画的な研修を行政が主体となって行っていく必要がある。地域における巡回相談については実践方法に関する論文はまだ少なく、またどのような研修を保育担当者に提案し、理論と実践を融合させるかについては今後の課題と思われた。

V. 結語

今回、巡回相談における相談ツールを開発・導入し、実践を行った。これらツールの使用が管理職、保育担当者において巡回相談を受けるにあたって相談児童選定、及び実態把握方法に効果を及ぼすことが結果として得られた。

今後、さらなる効果的な巡回相談を実施するためには、相談児童の選定及び実態把握について、その精度を高めていく必要性が考えられる。対象児選定においては、先に述べた相談確認シートの活用方法だけでなく、導入したフロチャートの過程において、実際に保育施設現場において行った支援の振り返りが可能となるよう、相談確認シートとの関連性を示す記載事項を追加することなどが考えられる。また、児童の実態をつかむためには、保育担当者の発達に関する理解の向上を欠かすことはできない。さまざまな研修会実施はもちろんだが、今回作成した研修動画も含めて、保育担当者がアクセスできる研修データベースの構築、保育実践集作成など理論と実践を結びつける方法の検討が必要である。

また、巡回相談を実施する、保健師、児童指導員などの担当者の専門性を高めることも引き続き重要な課題となる。

付記

本研究は日本生命財団、研究・地域活動助成、児童・少年の健全育成助成（実践的研究助成）の助成を受け倉吉市と鳥取大学井上雅彦研究室との共同研究事業として実施された。

引用文献

芦澤 清音・浜谷 直人・田中 浩司 (2008). 幼稚園へ

の巡回相談による支援の機能と構造: X市における発達臨床コンサルテーションの分析 発達心理学研究, 19, 252-263.

American Academy of Pediatrics. (2021). Intervention Approaches Used for Children with Autism Spectrum Disorder—Autism Toolkit. *Patient Education Handouts from* https://publications.aap.org/patiented/article-abstract/doi/10.1542/peo_document586/81993/Intervention-Approaches-Used-for-Children-With?redirectedFrom=fulltext

原口 英之・望月 春花・野呂 文行 (2013). 保育施設における行動観察記録に基づいた支援会議の有効性の検討—巡回相談による自閉症幼児への支援— 自閉症スペクトラム研究, 10, 15-25.

原口 英之 (2021). 保育所・幼稚園への巡回相談のアウトカム—エビデンスの整理— 発達障害研究, 43, 185-194.

Maenner, M. J., Warren, Z., Williams, A. R., Amoakohene, E., Bakian, A. V., Bilder, D. A., Durkin, M. S., Fitzgerald, R. T., Furnier, S.M., Hughes, M. M., Ladd-Acosta, C. M., McArthur, D., Pas, E. T., Salinas, A., Vehorn, A., Williams, S., Esler, A., Grzybowski, A., Hall-Lande, J., ... & Shaw, K. A. (2023). Prevalence and characteristics of autism spectrum disorder among children aged 8 years — Autism and developmental disabilities monitoring network, 11 sites, United States, 2020. *Morbidity and Mortality Weekly Report Surveillance Summaries*, 72, 1-14. <https://doi.org/10.15585/mmwr.ss7202a>

園山 繁樹・由岐中 佳代子 (2000). 保育所における障害児保育の実施状況と支援体制の検討—療育のある統合保育に向けての課題— 社会福祉学, 41, 61-70.

特定非営利活動法人アスペ・エルデの会 (2018a). 効果的な巡回相談支援のための基本と実践 Retrieved March 22, 2024 from <https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/00307929.pdf>

- 特定非営利活動法人アスペ・エルデの会 (2018b).
厚生労働省 平成29年度障害者総合福祉推進事業 報告書 巡回支援専門員による効果的な子育て支援プログラムに関する調査とその普及
Retrieved March 22, 2024 from
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000307928.pdf>
- 特定非営利活動法人アスペ・エルデの会 (2018c). 巡回相談支援活用マニュアル Retrieved March 22, 2024 from
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000307931.pdf>
- 植松 勝子 (2015). 就学前発達障がい児の基盤整備に関する検討—母子保健活動と保育施設・幼稚園との連携— 日本公衆衛生看護学会誌, 4, 139-147.
- 脇 貴典 (2021). コンサルティに変容を及ぼしたコンサルタントの巡回相談スキルの分析 発達障害研究, 43, 195-204.
- 柳沢 君夫 (1997). 統合保育に関わる巡回訪問指導員の専門性に関する一考察—巡回訪問の実践をとおして— 特殊教育学研究, 34, 17-22.

井口 妙子・山口 穂菜美・井上 雅彦：倉吉市における早期発達支援体制整備の取り組み

資料 1

相談確認シート

令和 2 年度		子ども発達		保育園・こども園		園巡回相談対象者一覧 (記入例)		相談希望 順位	令和2年度 園訪問指導結果	
通年	住所	漢字氏名	生年月日	令和元年園訪問	訪問後経過	取組の 効果	令和2年度 園訪問希望確認・健診後確認内容状況			
				相談主訴	指導内容	園で取り組んでみたこと	園訪問相談希望・主訴			
1	堺町 2- 253-1	継続 新規 倉吉 太郎	H27.7.22	生活面・身辺自立	家具等の配置変更(物理的構造化)	家具等の配置変更(物理的構造化)	あり	健診後確認内容 相談希望あり 園訪問での 相談希望なし	3	今年度終了・有事相談 家具等の配置変更(物理的構造化) 全体スケジュールの見直し 個別スケジュールの導入・見直し 援助レベルの見直し 全体活動内容の追加・見直し 視覚的ヒントの導入・追加 個別学習・個別時間の導入・見直し その他
				落ち着きのなさ	全体スケジュールの見直し	全体スケジュールの見直し	生活面・身辺自立	理由)		
				不安の強さ	個別スケジュールの導入・見直し	個別スケジュールの導入・見直し	落ち着きのなさ	①状態の改善		
				運動面(粗大・微細)・感覚面	援助レベルの見直し	援助レベルの見直し	不安の強さ	②特に困っていることがなくなった		
				認知面	全体活動内容の追加・見直し	全体活動内容の追加・見直し	運動面(粗大・微細)・感覚面	③個別に支援員・指導員に相談		
				コミュニケーション・言葉の遅れ	視覚的ヒントの導入・追加	視覚的ヒントの導入・追加	認知面	④個別に他機関に相談		
				遊び・社会性・他児との関わり	個別学習・個別時間の導入・見直し	個別学習・個別時間の導入・見直し	なし	コミュニケーション・言葉の遅れ		
2	堺町 2- 253-1	継続 新規 倉吉 花子	H27.9.1	生活面・身辺自立	家具等の配置変更(物理的構造化)	家具等の配置変更(物理的構造化)	あり	健診後確認内容 相談希望あり 園訪問での 相談希望なし	2	今年度終了・有事相談 家具等の配置変更(物理的構造化) 全体スケジュールの見直し 個別スケジュールの導入・見直し 援助レベルの見直し 全体活動内容の追加・見直し 視覚的ヒントの導入・追加 個別学習・個別時間の導入・見直し その他
				落ち着きのなさ	全体スケジュールの見直し	全体スケジュールの見直し	生活面・身辺自立	理由)		
				不安の強さ	個別スケジュールの導入・見直し	個別スケジュールの導入・見直し	落ち着きのなさ	①状態の改善		
				運動面(粗大・微細)・感覚面	援助レベルの見直し	援助レベルの見直し	不安の強さ	②特に困っていることがなくなった		
				認知面	全体活動内容の追加・見直し	全体活動内容の追加・見直し	運動面(粗大・微細)・感覚面	③個別に支援員・指導員に相談		
				コミュニケーション・言葉の遅れ	視覚的ヒントの導入・追加	視覚的ヒントの導入・追加	認知面	④個別に他機関に相談		
				遊び・社会性・他児との関わり	個別学習・個別時間の導入・見直し	個別学習・個別時間の導入・見直し	なし	コミュニケーション・言葉の遅れ		
3	堺町 2- 253-1	継続 新規 倉吉 二郎	H27.11.10	生活面・身辺自立	家具等の配置変更(物理的構造化)	家具等の配置変更(物理的構造化)	あり	健診後確認内容 相談希望あり 園訪問での 相談希望なし	2	今年度終了・有事相談 家具等の配置変更(物理的構造化) 全体スケジュールの見直し 個別スケジュールの導入・見直し 援助レベルの見直し 全体活動内容の追加・見直し 視覚的ヒントの導入・追加 個別学習・個別時間の導入・見直し その他
				落ち着きのなさ	全体スケジュールの見直し	全体スケジュールの見直し	生活面・身辺自立	理由)		
				不安の強さ	個別スケジュールの導入・見直し	個別スケジュールの導入・見直し	落ち着きのなさ	①状態の改善		
				運動面(粗大・微細)・感覚面	援助レベルの見直し	援助レベルの見直し	不安の強さ	②特に困っていることがなくなった		
				認知面	全体活動内容の追加・見直し	全体活動内容の追加・見直し	運動面(粗大・微細)・感覚面	③個別に支援員・指導員に相談		
				コミュニケーション・言葉の遅れ	視覚的ヒントの導入・追加	視覚的ヒントの導入・追加	認知面	④個別に他機関に相談		
				遊び・社会性・他児との関わり	個別学習・個別時間の導入・見直し	個別学習・個別時間の導入・見直し	なし	コミュニケーション・言葉の遅れ		
4	堺町 2- 253-1	継続 新規 打吹 倉子	H27.12.28	生活面・身辺自立	家具等の配置変更(物理的構造化)	家具等の配置変更(物理的構造化)	あり	健診後確認内容 相談希望あり 園訪問での 相談希望なし	1	今年度終了・有事相談 家具等の配置変更(物理的構造化) 全体スケジュールの見直し 個別スケジュールの導入・見直し 援助レベルの見直し 全体活動内容の追加・見直し 視覚的ヒントの導入・追加 個別学習・個別時間の導入・見直し その他
				落ち着きのなさ	全体スケジュールの見直し	全体スケジュールの見直し	生活面・身辺自立	理由)		
				不安の強さ	個別スケジュールの導入・見直し	個別スケジュールの導入・見直し	落ち着きのなさ	①状態の改善		
				運動面(粗大・微細)・感覚面	援助レベルの見直し	援助レベルの見直し	不安の強さ	②特に困っていることがなくなった		
				認知面	全体活動内容の追加・見直し	全体活動内容の追加・見直し	運動面(粗大・微細)・感覚面	③個別に支援員・指導員に相談		
				コミュニケーション・言葉の遅れ	視覚的ヒントの導入・追加	視覚的ヒントの導入・追加	認知面	④個別に他機関に相談		
				遊び・社会性・他児との関わり	個別学習・個別時間の導入・見直し	個別学習・個別時間の導入・見直し	なし	コミュニケーション・言葉の遅れ		

資料2
実態把握シート

園名		園 組		クラス人数	名	担任	記入年月日	令和 年 月 日
ふりがな		住所		年齢	生 年 月 日	性別	記入年月日 年 月 日	
名前		高吉市		歳	平成 年 月 日	男・女	生活の流れ・食事・着脱・排泄の自立度や遊びの様子を把握しましょう	
健康・家族情報：空欄に記入、もしくは当てはまる項目に○または塗りつぶす		巡回訪問対象となったイベント		健康フォロー		園からの相談		継続・新規
診断名		医療機関への受診歴		なし・あり		中部療育園 厚生病院 他		時間を 時 分
服薬状況		療育機関の利用		なし・あり		くんくん 東デイ わいはい きらり		場所 保育室
生育歴		その他専門機関相談歴		なし・あり		か月 日		何をするか バンヤマに輪替える
1,6健結果		出生： 週 日		名 定額： 月 日		はいはい： 月 日		子どもの状態 一人で輪替えようとする
3健結果		独歩： 月 日		始語： 月 日		か月 日		先生はどうするか 一番上のボタンはめを手伝う
家族構成		家庭での養育状況		園巡回		すこやか健診 医療紹介		どうなればよいか 一人でボタンはめができる
保育目標をふまえての評価・反省（入園後何ができたようになったか、何がまだできないか、無理はないか、改良の必要はないか）		コミュニケーション：お子さんが示す行動を○または塗りつぶす		園巡回		すこやか健診 医療紹介		
共通注意		指さしされた方を見る		共有の指ししを見る		見せる		
誘出手段		直接行動		手を押さず		返す		
本人からの発信		要求		拒否		説明		
受容		直接介助		ジェスチャー		絵/写真カード		
興味や関心のあること（活動・もの・人など）		好きな遊びと遊び方		誰と？		何をやって？		どれくらい？（時間）
どんな遊び方、関わりをしていますか？当てはまる番号に○、または塗りつぶしてください。		①区別しない遊び		②物理的な特徴の遊び		③はすす。取り外す遊び		遊びの際の他者との関わり
④1対1対応		⑤全般的（目的なし）		⑥物理的（目的あり）		⑦日常的		1)一人でする遊び
⑧ふり遊び		⑨人形を使った遊び		⑩短い流れがある遊び		⑪興立（物あり）		2)他者への接近
⑫身体・動作模倣		⑬言葉模倣		⑭音声・言語模倣		⑮身体・動作模倣		3)ハルハル（平行遊び）
⑯言葉模倣		⑰音声・言語模倣		⑱身体・動作模倣		⑲言葉模倣		4)シェアリング（一緒に遊ぶ/5)
⑳言葉模倣		㉑音声・言語模倣		㉒身体・動作模倣		㉓言葉模倣		5)カーン（かわりばんこ）
㉔言葉模倣		㉕音声・言語模倣		㉖身体・動作模倣		㉗言葉模倣		6)ルールのある遊び
㉘言葉模倣		㉙音声・言語模倣		㉚身体・動作模倣		㉛言葉模倣		7)社会的なやりとり
㉜言葉模倣		㉝音声・言語模倣		㉞身体・動作模倣		㉟言葉模倣		友達との関わり方の特記
㊱言葉模倣		㊲音声・言語模倣		㊳身体・動作模倣		㊴言葉模倣		例 一方的に話しかける、働きかけず
㊵言葉模倣		㊶音声・言語模倣		㊷身体・動作模倣		㊸言葉模倣		
㊹言葉模倣		㊺音声・言語模倣		㊻身体・動作模倣		㊼言葉模倣		
㊽言葉模倣		㊾音声・言語模倣		㊿身体・動作模倣		1. 朝の会の先生の話の時に、黙って話を聞く		④どう対処していますか？
㊿言葉模倣		1. 朝の会の先生の話の時に、黙って話を聞く		2. 朝の会の前にしずかにカードで確認、ポケットに入れてもらう。		3. できたねシートにシールを貼る。		
【カンファレンス結果】		今後の方針		終了		継続		紹介
その他								

資料3

研修動画（共同注意・遊びのレベル）

